



〈連載⑬〉

## 瀬戸内海の小型クルーズフェリー



大阪府立大学船舶工学科講師

池田良穂

ヨーロッパのカーフェリー業界では、最近、「クルーズフェリー」という言葉がよく使われる。これは、北欧の定期カーフェリーの一部が、単に旅客と車両の輸送という役割だけでなく、船の旅そのものを楽しむ人々を顧客として獲得し、カーフェリーの旅にクルーズ客船としての楽しさを加えることができたことによるもので、今では一大産業になりつつある。例えば、スウェーデンとフィンランドを結ぶバルト海横断航路には、30,000総トン級のカーフェリーが続々と登場し、ついに50,000総トンのカーフェリーが発注されるに至っている。しかも、50,000総トンのカーフェリーは、30,000総トン級のカーフェリーとそれほど旅客定員も車両の搭載数も増えていない。すなわち、船内設備の拡充をねらったもので、明かに船旅自体を楽しもうという乗客へのサービスを狙ったもののように思われる。しかも、代替されるカーフェリーが、いずれも建造後10年未満の船であるから、その盛況ぶりがご理解頂けよう。本欄の第1回目で、こうした「クルーズフェリー」といわれる船の一隻である「フィンランディア」（25,905総トン、1981年建造）に乗船したときの様子をご紹介したが、船内設備は現在のクルーズ客船と遜色のないものとなっていた。

日本でも、「クルーズフェリー」と呼ぶに相応しいハードを持ったカーフェリーが幾隻か姿を現わし始めた。例えば、三宝海運の「ほわいとさんぽう2」、新日本海フェリーの「ニューしらゆり」、太平洋フェリーの「きそ」などである。いずれの船にも乗船してみたが、残念ながら、ソフト面は北欧のクルーズフェリーに比べるとまだまだかなり落ちる。北欧のフェリーのように、乗客と乗用車の運賃収入が、船内でのレストラン、売店の売り上げを上回るほどになって初めて、ソフト面の充実が可能なのかもしれない。ただ、ソフト面の充実がなければ、船内売上が運賃と同等なものにはならないようにも思うが……。

このように、クルーズフェリーとは「定期航路に就航するカーフェリーで乗客を十分楽しませることができ、この船に乗ること自体を目的としたお客を呼ぶことができる船」と定義でき、欧州では、一般に比較的長距離航路に就航し宿泊設備を設けたものをいうのが普通だが、短距離のカーフェリーにこの定義を適用してもおかしくはない。そうした、短距離のカーフェリーが瀬戸内海では出現してきつつある。すなわち、定期のカーフェリーが、デイ・クルーズ客船としての機能も合わせ持つというものである。

筆者が初めて「クルーズフェリー」と呼ぶに相応しい小型フェリーに乗船したのは昨年の夏のことであった。呉にある石川島播磨重工に仕事で出掛け、1泊して大阪への帰りに、すこし時間に余裕があったので、呉から広島までフェリーに乗ってみることにした。船の好きな連中からは、松山～呉～広島航路にずいぶんグレードの高いフェリーが就航している、との話を聞いていたので、ぜひ一度実際に乗船してみたいと思っていた。この航路は、石崎汽船と瀬戸内海汽船が2隻ずつのカーフェリーを投入しており、筆者が乗船したのは石崎汽船の「旭洋丸」であった。乗船してみて、そのグレードの高さに驚いた。2等室の椅子は航空機並にすばらしく、しかも前面は瀬戸内海の景色が十分に楽しめるように大きな窓となっている。一部の椅子はラウンジ風に配置され、また一部はリスニング用にイヤホンの設備まで装備されている。この船の一部をうまく使えば、まさに瀬戸内海の航海自体を楽しむお客もよべそうな気がした。ただ、残念なことにソフト面がそこまで追いつかず、筆者の乗船した時にはコーヒーなどのサービスもなく、飲めるのは自動販売機の缶コーヒーだけであった。

その年の秋、広島への出張の機会に夜行カーフェリーを使って大阪から松山に渡り、もう一度この小型クルーズフェリーに乗船して広島へ入ることとした。前回は石崎汽船の船だったので、できれば瀬戸内海汽船の方の船に乗船してみたかったのだが、生憎スケジュールが合わず、同じ「旭洋丸」への乗船となった。前回は、呉から広島までのわずかの乗船時間で、行き違い船たちの写真撮影にいそがしかったが、今回は松山から広島まで約3時間、大いに瀬戸内海を満喫することができた。これに、おいしい料理とお酒でもあれば、美しい瀬戸内海をさかなにとても楽しい船旅ができそうに思った。エーゲ海のデイ・クルーズ船に匹敵する、瀬戸内海のデイクルーズ・フェリーである。特に、途中で寄港地がある場合には、その寄港地での観光もセットし、次便を利用してさらに自的地に行くことも可能である。あと、船内でのソフトが充実すれば、十分「デイクルーズフェリー」と呼ぶに相応しい船に育つ可能性があるように思った。

ヨーロッパのフェリーがやっているように、食事と飲み物そして観光もセットにしたクルーズ切符など売り出して、船の旅自体を楽しむ日本人を一人でも増して頂きたいものだ。



筆者の乗船した「旭洋丸」



同じ松山～広島航路に就航する瀬戸内海汽船の「石手川」